

【出題意図】

現代社会が要請する科学技術と精神文化の融合に貢献する人材育成という本研究科のディプロマポリシーの理解と、自分自身の研究課題を通して具体的にどのような貢献を目指すのかを問う。

【解答例】

この問題は正答が一義的ではなく、受験者の考えを論述させる問題であることから、解答例等の提示はしておりません。

I（必答問題）

第一問

〈出題意図〉

上代文学の理解に必須となる「歌」をめぐる基礎的知識が習得できているかを確認するための問題である。

〈解答〉

1、歌垣 2、挽歌 3、大伴家持

第二問

〈出題意図〉

問一は古文読解のための基本的な単語・敬語が、問二は用語が、また問三は国文学史に関する基礎的知識がそれぞれ習得できているかを確認するための問題である。

〈解答〉

問一

（大納言は）「この御鷹が、探しましたけれど、おりませんでした。どうしたらよろしいでしょうか。どうして何も仰せにならないのですか」と申し上げなされると

問二

掛詞

問三

大和物語

第三問

〈出題意図〉

漢文の基本的な訓読能力が身についているかを確認するための問題である。

〈解答〉

問一

不如勿許、興兵擊之。

問二

〔和親の申し出を〕許可することなく、出兵してこれ〔匈奴〕を撃った方がよい

II（選択問題）

第一問

〈出題意図〉

問一：近・現代文学の作品に対する分析能力に加え、論理的な文章を適切な表現を用いて書くことができる能力についても確認するための問題である。

問二：近・現代文学史の基礎的知識を習得できているかを確認するための問題である。

〈採点基準・解答〉

問一

- ・主張／根拠が説得的に組み立てられているか
- ・表現についての読解が妥当か
- ・技法(異化効果の活用など)が指摘できているか
- ・文章表現は適切か
- ・独自性のある読みができていますか

問二

萩原朔太郎

第二問

〈出題意図〉

近・現代文学史に関わる知識が、個々の単語レベルではなく体系的に身につけているか、またそれを自らの言葉で説明できるかを確認するための問題である。

〈解答例・採点基準〉

- ・代表作が指摘できているか
- ・作風が指摘できているか
- ・文学史的位置付けが指摘できているか
- ・文章表現は適切か

(「文学史的位置付け」は現代作家についてはいまだ明確に定まっておらず指摘が難しいため、記載がなくても可。その分の配点は他の項目に配分)

III（選択問題）

〈出題の意図〉

国語学に関わる学術用語が十分に理解できているか、またそれを自らの言葉で説明できるかを確認するための問題である。

〈採点基準〉

問一

- ・日本語の受身文の二つのタイプ(直接受身／間接受身)があることが指摘できているか
- ・前者は「過不足なく要素を入れ替えて能動文に書き直せる」ことが指摘できているか
- ・後者に「迷惑した、困ったことだ」といったニュアンスがついてまわることが指摘できているか
- ・文章表現は適切か

問二

- ・ 共通語化の説明（地域のことばが全国で共通に使われるようなことばに切り替わっていくこと）が
できているか
- ・ そこに学校教育やマスメディアが影響していることが指摘できているか
- ・ 具体的な例が挙げつつ説明できているか
- ・ 全国共通語に対する地域共通語といったものの存在が指摘できているか
※必須要素ではないが加点対象
- ・ 方言話者が共通語を併用するようになる現象について指摘できているか
※必須要素ではないが加点対象
- ・ 文章表現は適切か

〈出題意図〉

問一 任意の作品を選び、その「間テキスト性」を具体的に説明せよ。なお、作品のジャンルは問わない。

批評理論の基本的な概念のひとつである「間テキスト性」について、その理解度を問う問題です。

小説、児童文学、戯曲、シナリオ、映画など本専攻で扱う諸ジャンルに即して、具体的な作品名を挙げながら、「間テキスト性」の実例を適切に説明できる論述力を問うものです。

問二 「間テキスト性」とオリジナリティとはどのような関係にあるか。あなたの考えを述べよ。

「間テキスト性」の概念を踏まえ、オリジナリティに関する自身の考えを論述する問題です。

本研究科ではアドミッション・ポリシーのなかで、「自らの研究課題が現代社会における文化創造にどのように寄与できるのか、という問題意識について自覚的である」ことを学生募集に際して重視するとしています。このポリシーに即して、文芸を中心とした創作実践に関する知識や理解とともに、文化創造の担い手としての主体性や見識を問うものです。

〈解答例〉

問一 受験生の考えを論述させる問いであり、一律の解答が困難であるため、解答例の提示はしていません。

評価のポイントは次のとおりです。

- 1, 「間テキスト性」の概念について、問題文に即して正確に理解できているかどうか。
- 2, 自らが興味関心を持つジャンルに即して、「間テキスト性」の具体例に言及できているかどうか。
- 3, 「具体的に説明せよ」という問いに対して、適切に解答できているかどうか。

問二 受験生の考えを論述させる問いであり、一律の解答が困難であるため、解答例の提示はしていません。

評価のポイントは次のとおりです。

- 1, 「間テキスト性」と「オリジナリティ」について、それぞれ適切に理解できているかどうか。
- 2, そのうえで双方の関係性に関する自身の考えを、論理的に説明できているかどうか。
- 3, 「創造」や「創作」に関して、自らの考えや立場を明確に表明できているかどうか。

[問題 1]

出題意図：建築環境学の日照・日射及び光の基礎的に関する出題である。光束と照度の違い、季節による日射量の違い、昼光率、均斉度、照度の逆二乗則について問う。

解答：①

[問題 2]

出題意図：建築環境学の熱環境・空気環境に関する出題である。熱放射、熱伝導率、絶対湿度・相対湿度、予测温冷感申告 PMV、機械換気の種別について問う。

解答：④

[問題 3]

出題意図：建築環境学の照明計算に関する出題である。点光源から法線面に入射する光による照度、傾斜面に入射する光による照度の計算について問う。

解答：3 - 1) 25.0 lx

3 - 2) 21.8 lx

[問題 4]

出題意図：(a)は建築環境と資源・エネルギーの関係、(b)は光環境・温熱環境において目標とすべき環境とその創出方法に関する自身の考え、(c)は建築環境を評価する指標の基礎的な知識について問う。

解答例：(a)、(b)については、一律の解答は困難。(c)については、光環境の場合、DF や DA, DGP や明るさ感、熱環境の場合、SET*や PMV 等を挙げ、これらに係わる物理量について述べる。